

響き合い 笑顔の花咲く 活力ある学校

南部つ子

第26号
平成19年1月31日
寒河江市立南部小

知行合一

校長 安食洋一

新年明けましておめでとう。今年も「**真心竹有低麗葉 傲骨梅無迎風花**」

「心にわたかまりのない竹は折れを低くしたむ葉は高きはなめぬ。」
 じつじつとした梅の花は市井の傲骨で上はかかろなきを回した花はなごころ
 意味がこころかな。

竹は竹のこころなごころな心と体を持ち、葉は葉の身のこころなごころ
 のこころかな。

教育者 王陽明の説いた「知行合一 (ちんぎつごいつ)」を
 ざんげのこころなごころな心と体と「大辞泉」に『知
 識の認識は必ずしも実行を指し示すものではない。知は行をなご
 りの認識を知りしるるのこころなごころな心と体 (知識の認識) と「道
 徳的実践」とは素直な一体をなごころな心と体とす。物事を実行する
 ときや実践のこころなごころな心と体とが求むるのこころな心と体と
 のこころなごころな心と体とが、すなわち、自らを自らと
 断つ「行動」なごころな心と体とをなごころな心と体とす。

子供達の学びは、身近な人々もこの興味を示し、先行経験の
 多い生活空間の中ではない、たまたまの理想をたし、課題解決の糸口や
 課題解決方法を薄々感じながら取り組むのが、じつじつと、学びの生

をなごころな心と体とす。

「**真心竹有低麗葉 傲骨梅無迎風花**」の「**真心**」は「**真心**」のこころな心と体と
 すべて「**知行合一**」を目標として思っています。日常の生活下の
 実践力を生かす知識や情熱を意味するだけではない、生活は「**実践**」
 の基礎・基本的な技能、そして基礎・基本的な心と体も確実に獲
 得して行へるものにならねばならないと思えます。知ったことを言
 行に移す、その方法を洗練する、工夫を凝らす、工夫を凝らす
 が求められます。

「**真心**」のこころな心と体とがあるが、基礎的・基本的な生活技能
 を回復も回復も繰り返す訓練として、熟達して磨かなければ、生
 き行動力にはなごころな心と体とす。同じように「**基礎的・基本
 的な生活**」の「**義礼言誠**」も熟達して磨いて、回復も回
 復も同じように繰り返す訓練として磨かれ、豊かな感性になる
 のがこころな心と体と。心が磨かれなごころな心と体とが、
 心が、接点には、方法や手段、心と体とが、
 なごころな心と体とが、必要なのこころな心と体と。

協調性も主体性を高めること、**協調性**も、**協調性**も、
 のこころな心と体とす。アトリエも意見を伺も出せ、他人の計画や方針
 に乗っかってはいない、**協調性**も、**協調性**も、
 今、葛藤の中からは、**協調性**も、**協調性**も、
 必要なのこころな心と体と。

身体を動かして、**協調性**も、**協調性**も、
 のこころな心と体とす。アトリエも意見を伺も出せ、他人の計画や方針
 に乗っかってはいない、**協調性**も、**協調性**も、
 今、葛藤の中からは、**協調性**も、**協調性**も、
 必要なのこころな心と体と。



1月の俳句

一年

かたつみの わたしがいばる なりたいな
 せんせいが カルタをまけた いこぼる
 ゆきがこせん かおほめたつこ ひあつめたい
 かわらわ たぐれたたぐた なごころな心と体と
 せきつなま へつひひひひひ ひびんのかお
 お正月 いっぱいお正月 うれいこ
 ぶくわらう 目がくわわわ ぼく見えな
 お正月 おほらやんたつこ へつひひひひひ
 じまむつこ かさののなかで へつひひひひひ
 スケートを すくすくすくすく おおなごころな心と体と
 はしスキー ひびひひひひひ ひびひひひひひ
 ゆきの日にかさく四人で ゆきがこせん

二年

くまのなを 湯たなほかわりた だごつめ
 りごまつも 子ごまつごたいな お正月
 ごまつも じまむつこつごう カルタを
 かなひなを 大ねなぬい 「はさ」
 せきつごつご じまむつごなごころな心と体と
 雪たなを 親たなごつご おおく待ひ
 初日の出 海がうらやめわらひ 出出来た
 寒い夜 七喜食へて へつひひひひひ
 せきつなま げんかた先で わらひひひひひ
 だんご木に けんご第一 なごころな心と体と
 雪のこころな心と体と 山がくわらわ へつひひひひひ

高島 和純子	秋葉 美鈴	吉見 健	志田 美咲	五土風 茜音	五土風 未来	鈴木 玖理	大江 真由	茨木 大空	菅浦 貴央	荒木 啓輔
--------	-------	------	-------	--------	--------	-------	-------	-------	-------	-------

「しっかり止まって、はっきり確認！」子ども達の安全な登下校に対する協力ありがとうございます♪

三年

かたよしの 多々木のほ だんだんつ
 ぶんわつい あせきたらだら ながすんだ
 手をパチンと 大人もしんけん かるたのり
 今年ね 雲かあんまり つもらない
 正月は そつこを食べて おいしいな
 お正月 いっぱいだめた お正月
 雲合戦 顔面うつられ あてかえす
 じいちゃんか 作ったかどまつ 大きいな

今井 雄平
 渡部 あいか
 渡邊 南奈
 川口 優楓
 森田 有涼
 伊藤 晃綺
 後藤 志穂
 渡辺 真由

四年

雲かきが 雲合戦で かわつた
 お正月 みんなの顔が ぶんわじゅつ
 姉弟で しんけん勝負 カルタとり
 初もつで かねの音聞いて 福をよび
 できるかな きみはスキーで パラソルターン
 正月は 今年の未来 始める日
 正月に 大吉ひいて 母笑顔
 冬なのに 小さいめが がんばってる

古澤 紗由佳
 佐藤 宏樹
 富樫 純哉
 高橋 純麗
 三浦 瑠平
 大谷 眞弓
 大泉 夕奈
 國井 紗里奈

五年

初売りに ならんで待って ためタッシュ
 お年玉 たくそんもらひは 使わな
 姉たちが カルタを楽しみ 初わり
 しめ飾り 私の手作り 自まつる
 あと十年 成人の日の 晴れ姿
 初夢は クラス仲良し 楽しこ夢
 年賀状 転校生を 思ひ出す
 雪だるま 雪だるまの ぽよぽよ

阿部 駿貴
 鈴木 樹絵里
 野尻 理奈
 長尾 夏夏
 菅野 真生
 五十嵐 夢奈
 川村 美涼
 遠藤 諒

六年

正月に 母あつ顔 福袋
 いのしだ 今年は僕が 年男
 お年玉 お金がたまって 回買あつ
 しめ飾り ほくの手作り 自まつる
 雲合戦 当てるおまけの くりかえし
 あかきわで 手のひらいたさう お母さん
 新年は こたつに入り みかん食へ
 初夢に 元気な祖父の 笑い顔
 カルタして 弟とまじり 本気出す
 鏡餅 祖母といっしょに 飾る朝
 あかきわに そつこ息かけ 登校す
 年が明け するよまじり 「初」がっへ
 正月に 百人一首で いざ勝負
 お年玉 貯金貯金と 親ころい
 春が来て みんなの心に 花がさく

阿部 司
 古城 貴康
 那須 彩香
 古澤 雅貴
 大沼 希
 神藤 恵莉香
 阿部 穂乃花
 阿部 美空
 原田 文
 佐藤 佑衣子
 後藤 大輔
 山口 拓哉

大人の部

お正月 みんなが帰った 後始末
 ひろひろで 落るる枯れ葉を 猫か追っ
 初晩酌 なんでもかんでも 初まつけ
 年明けて 十年日記 書き終章
 双八で 楽しい日本の旅をやる
 空の青 じつと見つめる 冬スミレ
 拙者の 序を踏まえて 新芽ふへ
 初口受け 決意新たに 春酒干す
 六弦が 奏する氷の 澄にの音
 透気を通る 雪の小枝に 湯けむる
 初荷船 決意をこめて 出航す

柴橋 杏菜 祖母
 森岡 晃太郎 祖母
 金澤 一真 父
 金澤 一真 母
 富樫 純哉 祖母
 阿部 美空 母
 夢野 継木
 夢野 継木
 夢野 継木
 夢野 継木
 夢野 継木
 夢野 継木

命の大切さについて考える

～命の大切さについて考える緊急集会～

■一月十一日(木)、四、六年生が集まって、「命の大切さについて考える緊急集会」を行いました。遊佐での大変痛ましい事件を受けて、また、昨今のいじめの問題をめぐり、「命の大切さ」について考えを深めていきたいと思います。まず、自分自身、自分自身、校長の話して自分だけがよいのでは、自分と同じように他人(友達)のことも考えるという明らかな未来を想像して、過去の今の子供達を乗り越えよう。形のないもの(人の気持ちなど)を思ひ出すという(家族や教える大人に)対する「恩」を忘れず、「恩返し」ができる人になろう。話をしました。子どもたちは、真摯に受け止め、深く考え込んでいる態度が見られました。次に、五年生のおいさつの大切さを、いじめについての意見を聞きました。■「家庭」についても、またこの南部地区においても、決して自分から命をおとすこともないよう、



学校、保護者、地域が連携して見守っています。直にお願ひください。

「南部子どもセンター」をおわけしています

■毎年好評の全校児童の顔写真掲載の「南部子どもセンター」を複製し、おわけしています。■約三〇部あります。■複製があるまじら、学校(TEL六・一四四三)まじり連絡してください。■一部三百部です。■頒布の申し込みは、おねがいいたします。